

☆☆ Society of Japan Clinical Dentistry ☆☆
2018年度 東京SJCDテクニシャンミーティング

拝啓

陽春の候、皆様におかれましては益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。

さて、来る9月2日に開催致しますテクニシャンミーティングにつきましてご連絡申し上げます。

本年は若手からベテランまで10名の歯科技工士のご登壇頂きます。それぞれが日常臨床において考えていることや気をつけていること、その具体的な方法までお話して頂けると思います。また、ディスカッションの時間も取っておりますので、普段なかなか聞けないような裏話も聞くことができるかもしれません。お付き合いの歯科医師、歯科技工士、また歯科衛生士をお誘い合わせのうえご参加頂けますようお願いいたします。

日時 2018年9月2日(日) 受付開始 9:30 / 開演10:00~16:40

会場 お茶の水 ソラシティカンファレンスセンターRoom C (地図別紙参照)

参加費 東京S J C D会員無料

※SJCD会員様は、入場の際に個々のQRコードが必要になりますので、スマートフォンにスクリーンショット保存、またはプリントアウトをしてご持参ください。

当日参加ビジター Dr 30,000円 DT 15,000円 DH・DA 9,000円

10:00~10:05 挨拶

10:05~10:35

小竹脩介 / (株)Smile Exchange

「今の職場と実家の技工所での効率面における作業工程の比較」

10:35~11:05

佐々木一樹 / (株)Smile Exchange

作業用模型の製作「ジロフォーム」を使用した模型精度の向上と効率化

11:05~11:35

鈴木健太 / (株)Smile Exchange

「耐火模型、セットアップ 模型の製作」

11:35~12:05

権和加子 / (株)Smile Exchange
「LiSi Press とemaxの比較検証」
12:05~13:00 昼食

13:00~13:30
田頭 朝子 加部歯科医院
「 審美修復治療における歯科技工士としての関わり合い方」

13:30~14:00
平島真悟 ウエマツ歯科医院
『インスタントカスタムシェードガイドを用いた一症例』

14:00~14:30
堀田 一正 / おざわクリニック
『日常臨床でのPFZ修復 ~PFM修復を経て~』

14:30~14:50 休憩

14:50~15:20
片野潤 原宿補綴研究所 DIODigital.Co
「TRIOSを使った補綴の進め方とCAM機の現状」

15:20~15:50
片川 紘輔 Sway Dental Labo
残存歯との調和、自然観を意識した上顎中切歯審美症例

15:50~16:20
鈴木 和之 VIVO Dental Studio
「インプラント上部構造の形態を技工士サイドから考察する」

-----16時20分閉会挨拶-----

小竹脩介 / (株)Smile Exchange
略歴
2009 東北大学歯学部附属歯科技工士学校卒
2009 東北大学歯 学部附属歯科技工士学校研修課
2009 Dental Laboratory Smile Exchange勤務

「今の職場と実家の技工所での効率面における作業工程の比較」

技工作業においては、常に効率を考えなければならない。私の実家は技工所で、帰省中に手伝いをした時、今の職場では感じない不便さを感じた。そこで今回は、受注から納品までを通し、受注方法や導入している機材の違いが効率面でどれだけの差が出るのかを比較してみた。

佐々木一樹 / (株)Smile Exchange

略歴

2010 岩手医科大学歯科技工専門学校 卒業

2010 朴沢デンタルラボ 勤務

2014 大阪セラミックトレーニングセンター全日コース 卒業

2015 Smile Exchange 勤務

作業用模型の製作「ジロフォーム」を使用した模型精度の向上と効率化

近年、CAD /CAMが普及し模型レスでの補綴物製作が可能となってきた今現在でも、まだまだクラウン・ブリッジの製作には口腔内の印象や石膏模型が必要である。しかし、石膏を使用した作業において、硬化膨張と吸水膨張が模型の精度とその後 の補綴物の精密さに関係し、模型製作にも多くの時間を取られてしまう。そこで今回は2つの膨張を補正しつつ従来の製作時間から短時間で製作可能なジロフォームを使用したシステムの特徴と作業の効率化についてお話しします。

鈴木健太 / (株)Smile Exchange

略歴

2016年 3月 新東京歯科技工士学校 卒業

2017年 3月 新東京歯科 技工士学校 専攻科 卒業

2017年 4月 Smile Exchange 勤務

「耐火模型、セットアップ 模型の製作」

抄技工物を作る際に欠かせない模型が実際にどのような手順で製作されてるかについて私なりにまとめました。色々な種類があるなかで耐火模型とセットアップ模型の二つを発表させていただきます。

権和加子/ (株)Smile Exchange

略歴

2011年 東京医科歯科大学歯学部附属歯科技工士学校 卒業

2011年 株式会社ワールドラボ 東京センター 勤務

2013年 デンタルファクトリー勤務

2014年 Smile Exchange 勤務

「LiSi Press とemaxの比較検証」

GCよりLiSi Pressが発売され、2ケイ酸リチウムによる修復物の選択肢が広がっている。しかし、当社で先行して使用していたemaxと比べるとどう違うのか、選択に迷う場面も多い。それぞれの特性を理解し、最適な材料選択のためにまずは色の特性にフォーカスして比較検証を行う事で臨床の複雑な窩洞形成でもできるだけ迷わないよう方程式をつくり、論理的な選択方法を検討してみたい。

加部歯科医院 田頭 朝子

略歴

2008年 日本歯科大学東京短期大学 歯科技工学科卒業

2011年 鶴見大学歯学部歯科技工研修課 冠橋義歯専攻 修了

2012年 鶴見大学歯学部歯科技工研修課 上級課程 修了

2012年 株式会社 オーリアラ勤務

2017年 加部歯科医院 勤務

「審美修復治療における歯科技工士としての関わり合い方」

本症例は上顎前歯の叢生による審美障害により来院。MIのコンセプトから上下顎前歯の部分的矯正とラミネートベニアによる形態回復をする運びとなった。歯科技工士としてセットアップ模型から最終補綴物製作に至るまでどのように歯科医師と連携を図ったらいいのか、加えて歯科技工士に求められている知識や技術等について考察していく。

平島真悟 ウエマツ歯科医院

略歴

2012年 公益財団法人 愛世会 愛歯技工専門学校卒業

2012年 公益財団法人 愛世会 愛歯技工専門学校卒業

2012年 有限会社 ユアーズデンタルラボラトリー

2016年 Oral design 彩雲コース受講

2017年 ウエマツ歯科医院

『インスタントカスタムシェードガイドを用いた一症例』

シェードマッチングのケースで必要不可欠なシェードガイドだが、各メーカーから販売されているシェードガイドでは目標となるシェードの指標とならないことが多々あると思う。そこでチェサイドで患者のシェードに合わせた即席シェードガイドを用いてシェードマッチングさせた一症例を紹介したいと思う。

堀田 一正 / おざわクリニック

略歴

1990年 東邦歯科技工専門学校(現東邦歯科医療専門学校) 専攻科(ポーセレン科)卒業

1990年 イチカワ歯科勤務

1991年 酒井歯科医院勤務

1995年 ユニオンデンタルラボラトリー勤務

1998年 天下堂歯科医院勤務

2016年 おざわクリニック勤務

『日常臨床でのPFZ修復 ~PFM修復を経て~』

レイヤリングによるセラミック修復物の主流がPFMからPFZとなって久しいが、私個人としては、PFZの臨床が出来る環境になったのはごく最近のことである。色調情報においても、PFMと共にフィルムの時代もあったが、その時に試行錯誤したことは今現在も無駄にはなっていない。臨床において”特別なケース”が存在しない私にとっては日々の臨床が全てであり、そのような日常臨床の中で色調的に大きな失敗を避けるために、アナログ的なプリントや、最近ではPCによる簡易的な画像合成試適なども用いている。色調情報である画像をどのように活用して、補綴物を製作していくかは、術者によって様々であると思う。私は特別新しい手法を用いている訳ではないが、技術的なこと以外にも注意している点も含めてお話ししたいと思う。

片野潤 原宿補綴研究所 DIODigital.Co

略歴

2009年 横浜歯科技術専門学校 歯科技工士学科 卒業

2010年 A.I.T.I The Aesthetic and Implant Technology Institute 卒業

2010年 原宿補綴研究所 入社 2016年 DIONavi.Center 出向

2017年 DIODigital.Co 出向

「TRIOSを使った補綴の進め方とCAM機の現状」

去年TRIOSの認可が下り昨今様々な情報が入り乱れています。デジタル技工をするにあたって数々の疑問や壁がありました。今回は主に技工士の観点から3shapeに焦点を当て私が調べた範囲で

CADデザインを効率的に行う上でのガジェットとCAM機を運用する点でメリットデメリットを述べさせていただきます。

まだまだデータ形式や他社IOSとの相性など臨床ベースでわからないことがあります。諸兄方におきましては様々なベクトルからご指南頂きたい。

片川 紘輔 Sway Dental Labo

略歴

2007年 共生会歯科技工専門学校 卒業

2007年 Tim Dental Project

2010年 株式会社 ライズ

2013年 株式会社 PREF

2017年 Sway Dental Labo 開設

残存歯との調和、自然観を意識した上顎中切歯審美症例

残存歯と調和、自然観を持たせる補綴物を作る事は、私たち技工士にとって、とても難しく、やり甲斐のある仕事です。昨今、ジルコニアをフレームに用いて作成する事が大半になりましたが、ジルコニア特有の明度の高い材料を用い、今までの私の経験から、どうやって色を合わせるか、形態に自然観を持たせるかを中心に、上顎中切歯の症例を基にお話しさせていただきます。

VIVO Dental Studio 鈴木 和之

略歴

1991年:日本歯科大学附属歯科技工専門学校(現:日本歯科大学東京短期大学)卒業

1992年:早稲田歯科技工トレーニングセンター卒業

2000年:渡米

2001年:医療法人社団清浩会 杉山歯科医院勤務

2009年:VIVO Dental Studio開業

「インプラント上部構造の形態を技工士サイドから考察する」

歯科治療におけるインプラントは必要不可欠になった昨今、埋入までのプロトコルや術式は数多くあるが、サブジンジバルを含めた上部構造の形態についてのエビデンスはあまり多くなく、明確なコンセンサスは見受けられないように思う。

それほどインプラントの種類、埋入ポジション（アングル、深度、位置）、埋入本数、プロビジョナリゼーション、バイオタイプ、軟組織を含めたインプラント周囲形態、咬合等、条件によって個体差が生じるからではないだろうか。

そこで、下顎第一大臼歯のインプラント上部構造の製作にあたり、印象採得後からのワークフローにフォーカスを絞り、インプラントプラットフォームから歯冠までの形態の意図を技工士サイドから考察しつつ、多方面からのご指南を仰ぎたい。ただし、プロビジョナルレストレーションは製作せず、上部構造形態は技工士サイドに比重を置くケースとしている。